

国語科学習指導案

12月8日(水) 第4校時 1年1組(1-1教室) 授業者

1 単元名 文法への扉 言葉の関係を考えよう

2 単元の目標

- (1) 「主語」「修飾語」「述語」などの文の成分の働きと、「主語・述語」、「修飾・被修飾」の関係のような文節同士の関係を理解することができる。 【知識・技能】
- (2) いくつかの文節がまとまって、全体で「主語」「述語」「修飾語」などと同じ働きをする連文節について理解することができる。 【知識・技能】

3 単元について

(1) 単元の特徴

1学期には、文節や単語という言葉の単位とそれぞれの性質について学んだ。本教材では、文の成分や文節同士の関係に着目し、文の組み立ての骨組みとも言える主述関係や修飾関係などを学習する。概念的ではなく、日常の言語生活に結びつけて理解することで、わかりやすく表現する力や正確に読み取る力につながる教材である。

(2) 子どもの姿

本学級のリーディングスキルテストの結果を見ると、「係り受け解析」や「照応解決」における能力値0以上の割合はいずれも20%前後だった。日頃の学習活動の中でも、主述関係のねじれた文や修飾関係の整わない文を書いて気づかないことがよくある。このことから、この単元の学習意義は大変大きい。言葉同士の関係やその働きを理解することは、「基礎的・汎用的読解力」の向上に寄与するものと考えられる。

(3) 単元構想・授業構想

本単元の指導にあたっては、生徒に興味・関心を抱かせる日常的な例文を用い、自分事として考えられる問題を提示したい。小学校での既習事項に揺さぶりをかけ、問題意識をもたせることで、受動的・概念的ではない文法の学習にすることができるだろう。それぞれの迷いや考えを話し合う場を設定し、より主体的に理解し体得できるようにさせたいと考える。

4 研究副主題との関連

本単元は、リーディングスキルの6つの視点のうちの「係り受け解析」に直結する内容である。「係り受け解析」は、「照応解決」とともに、文章を読むうえで最も基本的な力である。文の基本構造を把握する力を伸ばすために、文節同士の関係やその働きを正しく捉えさせたい。

5 単元の指導計画(総時数 3時間)

時	主たる学習活動・内容	評価方法・評価規準
1 本 時	○ 文の中から主語と述語を見つけ、その関係を捉える。 ・主語(青色) ・述語(赤色) ・「主・述の関係」4種	[知識・技能] ワークシート ・「主語」と「述語」に線を引いている。 ・「主・述の関係」を選び、番号を記入している。 ・「主語」と「述語」の働きや文の中での見つけ方をまとめている。
2	○ 例文の中から修飾語と被修飾語を見つけ、その関係を捉える。 ・修飾語(黒色) ・被修飾語(黒色) ・用言と体言 ・連用修飾語 ・連体修飾語	[知識・技能] ワークシート ・「修飾・被修飾の関係」に線を引いている。 ・「修飾語」「被修飾語」の働きや関係をまとめている。
3	○ 接続語と独立語という文の成分と、連文節の働きとその関係をとらえる。 ・接続の関係 ・独立の関係 ・並立の関係 ・補助の関係	[知識・技能] ワークシート ・「接続語」「独立語」に線を引いている。 ・「連文節」に線を引き、働きをまとめている。

6 本時の指導

(1) 本時のねらい

さまざまな文の中から「主語」「述語」を見つけ出す活動を通して、「主語」と「述語」の働きや文の中での見つけ方を理解し、言語化することができる。

(2) 指導過程

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 ◎リーディングスキルとの関連	◇手立て との関連	●評価
課題設定	1 基本例文で既習事項の復習をする。 (1) 主語と述語 (2) 主・述の関係の種類 2 本時の課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 「主語」「述語」はどういう言葉か。 また、見つけ方のポイントはどんなところか。 </div>	5 5	◎ 係り受け解析 主語や述語の定義、主・述の関係の把握という本時のねらいそのものである。	◇ 基本的な例文の問題を用意し、わかったという気持ちをもたせることで、本時の課題につなげる。	○ 主語や述語を見つけることはできても、説明するのはそう簡単ではないと気づかせ、課題意識をもたせる。
課題追究	3 課題に対して答えを予想する。 (1) 自分の考えをもつ。 ・ 「何が」「誰が」を表す言葉。 ・ 「どうする」「どんなだ」などを表す言葉。 ・ 主語は文の先頭にくる。 ・ 主語は「～は」「～が」がつく。 ・ 述語は文の最後にある。 (2) 考えを共有する。 4 予想したことを応用例文で確かめる。 (1) 主語と述語 (2) 主・述の関係の種類 (3) 問題点の検討 ・ 「～は」「～が」ではない主語をもつ文 ・ 主語らしき語句が2つある文 ・ 主語がない文 (4) 気づいたことのまとめ	10 15	◇ 考えをもちにくい場合には、「小学生に教えるとしたらどうするか」と仮定し、わかる範囲で考えを言語化できるようにする。	○ 見つけ方のヒントとして、文中での位置に着目するよう助言する。	● 課題に対する答えを、自分の言葉で書くことができる。(ワークシート)
振り返り	5 本時のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・ 主語→「何が・誰が」に当たる文節 ・ 述語→「どうする・どんなだ・何だある・いる・ない」に当たる文節 ・ 主語を探すにはまず述語を見つけ、そうするのは「何か」を考える ・ 「～は」「～が」の形を取らない主語もある。 </div> 6 振り返りをする。	5 5	○ 学んだところを教科書で確認し、線を引かせる。		○ 課題への考えが初めとどう変わったか比べさせ、学びを実感させる。